

令和5年度小平市立小平第十三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

国語の正答率は、東京都平均、全国平均より4～6ポイント下回った。漢字や読み取った内容を選択する問題は、正答率が9割を超えているが、自分の考えを整理して書いたり、間違っている漢字を正しく書き直したりするような記述式の問題の正答率が3割程度であった。

課題

選択式に比べ、記述式の問題の正答率が著しく低く、無回答率が高い。話の内容を理解できていても、目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることに課題があることが分かる。また、敬語を選択する問題では、無回答が2割を超え、この問題までたどり着けなかったことも分かった。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・文章を読み取る活動については、個人→グループ→全体という流れで行うことが多く、個人での読み取りに十分に時間を確保することが多かったため、読み取るスピードを意識した指導を行っていく。
- ・目的や意図に応じて自分の考えを書くためには、文章の要点や要旨を的確にまとめる力が求められる。そのために、重要な語や文をきちんと見付ける指導をしていく。考えを書く前に、文章の内容に対する考えの交流を行い、自分の考えを整理したり、他者の考えを取り入れたりする場面を設ける。書くことが苦手な児童に対しては、学習者用端末の文書作成アプリを使用させる。

【算数】

状況の分析

算数の正答率は、東京都平均、全国平均よりも上回った。「数と計算」「変化と関係」「データの活用」領域では、2～7ポイント高い数値を示した。一方で、「図形」領域では、全国平均より高いものの、正答率が5割程度であり、東京都よりも3ポイント下回った。

課題

「図形」領域の問題では、角度を何度で切り開けば正三角形になるか問う問題と、二つの三角形の大小を問う問題の正答率が低かった。正三角形の意味や性質を理解したり、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断したりすることが課題として挙げられる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・習熟度別指導を通して、児童の実態に応じた指導を継続する。算数学習ボランティアを積極的に活用し、作図の補助や活動に向けた言葉掛けなど、個に応じたきめ細かい指導をする。
- ・朝学習や授業後半の練習問題を解く時間では、東京ベーシック・ドリルや学習アプリを活用する。東京ベーシック・ドリルでは、診断テストの結果を基に、適宜学習内容を精選し、基礎・基本の習熟の徹底を図る。
- ・問題→めあて→自力解決→グループ交流→全体交流→まとめ→練習問題という流れで授業を展開する。
- ・既習事項の確認を丁寧に行い、自力解決に向けて見通しをもたせる。
- ・学習者用端末の活用や体験的な活動を取り入れ、論理的な思考の基に作図ができるようにする。

【質問紙】

状況の分析

課題

- ①「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、8割以上の児童が肯定的な回答をし、特に「当てはまる」と答えた児童は、東京都や全国の平均よりも10ポイント以上上回った。
- ②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、2時間以上と答えた児童は東京都の平均より15ポイント程低かった。最も高かったのは、「1時間以上2時間より少ない」で32ポイントだった。
- ③「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対し、9割以上の児童が肯定的な回答をし、「役立つと思う」と東京都や全国の平均よりも10ポイント以上上回った。
- ④「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」という質問に対し、「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた児童が東京都や全国の平均よりも5ポイント程高かった。

- ②に関しては、本校では家庭学習の時間の目安として「10分×学年」を保護者に伝えている。そのため、平日の家庭学習時間は1時間程度の児童が多い。
- ④に関しては、国語の調査結果の課題とも当てはまる。「自分の考えをまとめること」「他者の考えを生かすこと」に対して、苦手意識があることが分かる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・家庭学習の進め方について、保護者会、学年だより、個人面談等を活用し、具体的に保護者に伝えることを継続していく。
- ・「自分の考えをまとめること」「他者の考えを生かすこと」は、国語のみの課題ではない。多くの教科で、児童が学習内容をきちんと理解し、課題に対して自分の考えをもつためには既習事項の定着が求められる。学習アプリを朝学習や授業に活用し、学習の基礎・基本の定着を図っていく。また、視点を絞った資料の読み取りやペアやグループなどの話し合い活動を充実させるなど、発問の工夫や授業展開の工夫をしていく。